

## 気候変動・大気質研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>各プロジェクトがうまく連携し、GHG と SLCF について国・都市レベルのインベントリ評価が着実に進められている。</p> <p>GHG 削減の目標達成度評価についてのモデル再現・予測の結果は秀逸である。グローバルストックテイク 2023 準備に向け 2021 年度の GHG 収支報告書の公表も国の政策対応として高く評価する。今後も世界をリードして進めてほしい。</p>	<p>ご評価いただきありがとうございます。今後も引き続き成果を挙げられるよう、研究を推進します。</p>
	<p>地球システム分野や衛星事業でメタン濃度が過去 20 年で最大の増加率となったことが報告されており、その要因については本 PG で検討中とある。もう少し仮説や検証方法などを説明してもらいたい。</p>	<p>メタン濃度急増の要因は複合的である可能性が高く、現時点では要因特定に至っておりません。国環研が行う世界的にユニークな地点での継続的な観測ネットワークのデータからメタン濃度の特異的な変動を検出した場合、メタンの世界的な変動要因の一端が解明できる可能性があるため、観測データの詳細解析や逆解析への提供などが迅速に展開できるようチームでの情報共有を継続します。</p>
今後への期待など	<p>この分野での日本の研究レベルを維持するためにも、若手(大学院生など)をインターンとして受け入れる、というような試みも期待したい。</p>	<p>研究所としてはインターンの受け入れを行っており、本 PG としても積極的に貢献していきます。</p>
	<p>GHG/SLCF 等の推計方法の精度向上が、政策利用に対しどのようなメリットをもたらすのか、具体例を挙げた説明があれば研究の意義がよりわかりやすくなる。</p>	<p>ご助言ありがとうございます。政策利用については、環境省との意見交換会を通じて議論を重ねており、今後深めていきます。</p>
	<p>人為的な窒素投入については、国内外の専門家などとの情報交換を密にすることを期待する。</p>	<p>窒素については、UNEP プロジェクトの後継課題にコミットすることで、情報交換をさらに進めていきます。</p>